

ご挨拶

運営会議 議長
(富士通Japan(株))

いわつ せいじ
岩津 聖二



この度、運営会議議長を拝命いたしました富士通Japan株式会社の岩津です。

保健医療福祉情報システムの発展において、“JAHISは常に先頭を走ってきた”、その功績は計り知れないと思っています。会員各社の皆様方のご尽力に心から感謝申し上げます。そして皆様方が積み上げてきた30周年という節目の年に議長職を引き継ぐことになりましたこと、その重責に身が引き締まる思いです。

さて、近年、急速なデジタル化が進展し、医療および健康分野においてその影響がますます顕著になっています。特に医療情報のデジタル化とその利活用が注目されており、政府からは「医療DXの推進」や「Public Medical Hubの開発」、そして「プログラム医療機器への積極的な実装」など、今後の方針が示されています。このような変革には技術革新や規制改革が深く関与しており、我々もその大きな潮流に積極的に対応していく必要があります。

また、健康意識の高まりや高齢化社会の進展に伴い、健康管理や医療サービスへの需要が拡大しています。このため、デジタルヘルスケアやテレメディシンなどの新たなサービスが求められています。我々はこうした社会的課題に対応するために、保健医療福祉情報システムのトレンドに敏感に対応することが重要です。

JAHISでは、保健医療福祉情報システムを通じて健康で豊かな国民生活を支えることを目指し、「データ循環型社会の実現」をコンセプトに「2030ビジョン」を掲げています。このビジョンを実現するために、2030年までの健康・医療・介護分野の社会環境の変化を考慮し、JAHIS会員各社が提供する保健医療情報システムや保有する仕組みが、日本の将来の健康長寿社会にどのように貢献できるかを構想しています。

2030ビジョンの達成に向けて、JAHISは健康・医療・介護データの標準化と安全な運用を支えるための医療安全機能の強化に最優先で取り組むことを考えています。

具体的には、政策に対する戦略的な発信を行い、標準類や実装ガイドの整備と普及促進を行います。また、会員共通の課題に迅速に対応し、会員サービスの充実を図ります。さらに、ヘルスケアICT市場の把握や新規市場の調査・支援を行い、会員満足度の向上を図ります。最後には、業界代表として積極的に対外活動に参画し、JAHISブランドの向上に努めます。また、コンプライアンス体制の維持・

強化や運営基盤の強化、必要な人材の確保も行っていきます。

30周年にあたり、私たちはこれまでの実績を称えるだけでなく、未来に向けての新たな挑戦にも取り組んでまいります。そのためにも変化する社会環境に適応しつつ、行政や関連団体との連携を通じて、JAHISの事業運営を推進していきたいと考えています。次の30年も、JAHISが一層の成長を遂げ、健康で豊かな国民生活を支えること・医療の質の向上に貢献することを確信しています。皆様と共に、より良い未来を築くために、今後ともご支援とご協力をお願い申し上げます。

ご挨拶

標準化推進部会 部会長
(キヤノンメディカルシステムズ(株))

ゆざわ ちかよし
湯澤 史佳



会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解並びにご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年3月より標準化推進部会の部会長を務めさせていただきます。

本年も折り返しを過ぎ、これまでも医療DXの実現に向けて様々な施策が展開され、具現化、普及が待ったなしの状況です。世の中では、マイナ保険証の普及推進、電子処方箋の展開、電子カルテ情報の標準化、診療報酬改定の効率化、サーバーセキュリティ対策、医療従事者の働き方改革、人口減少・少子高齢化といったキーワードが毎日のようにメディアを賑わしてそのたびにコンテンツにくぎ付けになっています。

一方、ICT、IoT、AI等の技術の進歩がますます加速していく中で、わがヘルスケア分野も例外なくそのサービス向上のために様々な業態の会社、団体が数多く参入してきて個々にソリューションが展開されています。しかし、データ互換や相互運用性という切り口でいうとまだまだ全体最適というには程遠く、結果として利用者に対して利便性の向上、豊かなものであるという課題を克服できずにいます。

この状況を鑑み、これらの仕組みを相互に支える指針、規約、ガイドライン等の策定・周知・運用支援などの徹底した活動がますます重要となります。JAHISは其中で中核的な存在として、持続的な活動と高い倫理観に基づき今後もリーダーシップを発揮し、業界を引っ張っていけるよう力を尽くしていくべきであると思います。

標準化推進部会としましても今年度の事業方針に基づき、

- 1) 行政・学会・関連団体等と連携した標準化の推進
- 2) JAHIS標準類制定時の適正な審議と制定後の有用性の維持管理
- 3) 国際標準と日本の要件や状況との整合性の確保および国際標準化団体との調整、日本からの標準化提案
- 4) 医療情報関連標準類の普及活動の推進

を通してJAHISの役割の一翼を担い、既存の枠組みを超えて官民一体となり取り組むことを前提として、さらには会員以外の団体にも広く門戸を開いていけるよう努力していきたいと思います。

我々が安心して心身ともに健康で豊かな生活を営めるように、ぜひ皆様も数多くの方々に参画いただき、JAHIS活動、業界全体の活性化のため今後ともご支援を賜りますようよろしくお願いします。

ご挨拶にかえて

医療システム部会 部会長
(日本電気株)

ふく ま こう じ
福間 衡治



本年2024年6月より、医療システム部会 部会長を拝命いたしました福間衡治と申します。

2020年6月から2年間は事業推進部長、2022年6月からは運営部担当運営幹事としてJAHIS活動に携わってまいりました。これらの経験も踏まえご挨拶にかえて雑感を交えながら、サブタイトルとして『JAHIS活動の醍醐味』とでもして徒然なるままに書いてみたいと思います。

まずは真面目なお話から。医療DXという言葉がすっかり定着し、その実現に向けて、①全国医療情報プラットフォームの創設 ②電子カルテ情報の標準化等 ③診療報酬改定DXを3本の柱を中心に取り組みを進められています。医療DXの推進に関する工程表〔全体像〕の矢羽根が適宜アップデートされ、矢羽根に追いつけ追い越せと言わんばかりに熱い議論がなされております。その進展とともに、我々JAHISの担う役割、医療システム部会の役割は益々重要になるものとひしひしと感じている次第です。

医療システム部会は、電子カルテ委員会、部門システム委員会、セキュリティ委員会、相互運用性委員会の4つの委員会を中心にJAHISの他部会、委員会、タスクフォースや省庁、関連団体とも連携・協力して健全な運営を行い、業界の健全な発展に寄与してまいります。これまで医療システム部会を支えていただいた方々をはじめ、医療システム部会の活動にご協力をいただいておりますことを御礼申し上げるとともに、引続きご支援をお願い申し上げます。

さてここからは、サブタイトル『JAHIS活動の醍醐味』として2つ挙げさせていただきます。

1つ目は、JAHISの法人名が示している「保健医療福祉分野における情報システム」の健全な発展に直接貢献できるということです。個々人や各会社ではなかなか伝えられないことも、380社を超えるJAHISの英知が集まることで、行政にもしっかり思いを伝えることができていると感じています。特にここ数年は、診療報酬改定DXというJAHIS（というより元医事コンピュータ部会運営幹事の森本さんネーミング）の言葉がそのまま骨太に記載され推進されていたり、医療DXの様々な施策やセキュリティに関する相談がJAHISに真っ先に来るなど、JAHISのプレゼンスは益々高まるばかりと感じています。

2つ目は、JAHISの活動を通じて、産官学のキーパーソンとお会いできるということです。私自身個社では営業セクションが長かったのですが、顧客とベンターという視座でお会いするのと、同じ課題

に向き合う仲間（いいすぎですかね?）として向き合うのとは随分違うことを経験できました。正直言ってこのマーケットっていろんな意味で厳しいと思ってやってきましたが、コンプライアンスを大前提にして、同じ厳しいマーケットに向き合っている産業界の方々と垣根を越えてマーケットの健全な発展に向き合うことは、本当に大きな財産になっています。心より御礼申し上げます。ありがとうございます。

最後になりますが、この保健医療福祉分野における情報システムマーケットが健全な発展を続けることで、会員各社も成長し続ける。JAHISが掲げる2030ビジョン（健康で豊かな国民生活を支える保健医療福祉情報システムの実現を目指して）の実現に向けて取り組むことで、ひいては、自分と自分が愛する家族や将来世代が、健康で穏やかに安心して過ごせる社会に貢献できるなんて素敵だと思いませんか？ぜひ一緒に頑張ってまいりましょう！

ご挨拶

保健福祉システム部会 部会長
(株)NTTデータ

さいとう たかひろ
齋藤 貴洋



JAHIS会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの活動にご理解・ご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、保健福祉システム部会の部会長を拝命いたしました齋藤貴洋と申します。着任にあたり、ご挨拶をさせていただきます。

先の6月に厚生労働省から発表された人口動態統計では、出生率が過去最低を更新したとの発表があり、生産年齢人口の減少および高齢化率の上昇は歯止めが利かず、現実問題の厳しさを痛感したのは皆様も記憶に新しいところかと思えます。

厚生労働省においては、従前からのデータヘルス改革や医療DX等の取り組みが益々加速し、経済産業省においても、「健康経営の推進」や「PHRの活用」、「介護・認知症等の地域課題への対応」など、経済の発展を伴ったヘルスケア政策が各種打ち出されており、これまで以上にJAHIS2030visionの実現に向けた活動の重要性が増すものと感じています。実際に、令和6年4月の次世代医療基盤法の改正により、仮名加工医療情報の利活用の仕組みが創設され、医療情報やNDBをはじめとしたリアルワールドデータの利活用が当たり前の世の中になってきたことで、高度化する様々な脅威に対するセキュリティも考慮しながら、日本の社会基盤のサービスレベルの底上げを図る活動は、非常に難易度の高いものと感じています。そのような中で今回、保健福祉システム部会長という大役を仰せつかり、身の引き締まる思いでおります。

私自身は、これまで品質要求の高い大規模システムの開発や、リアルワールドデータを使ったデータ利活用サービスの提供、健康・医療に関するサービス開発など、“しくみ”としてのシステム提供だけに限らず、幅広い形でのサービス提供を経験して参りました。その経験の中で、CloudやSaaSと言ったそれまでには無い形態の技術が次々と出てくる度に、利便性とセキュリティのトレードオフが課題となってきました。ここ数年で急速な広がりを見せる生成AIに代表されるAI関連技術や各種のセンシング技術の発達、データ循環型社会の実現には無くてはならない要素である一方、非常に高度化した技術である故に、サービスとしての安全性だけではなく、その使い方も含めた仕掛け作りが、データ循環型社会の実現に向けては一つのカギになると考えています。

保健福祉システム部会では、地域医療の「情報連携基盤」と「在宅医療」に関する検討、健康・健診に関する対応、そして自治体における福祉・介護、保険制度関連について対応を実施していることから、非常に幅広く深い知識・視野と今後の産業界の発展を見据えたバランス感が求められると考えています。

このようなJAHIS活動の重要性と、使命と理念を肝に据え、これらの推進と普及活動を通じて、医療、保健、福祉分野への貢献、および JAHIS会員の皆様への貢献に微力ながら尽力して参る所存ですので、会員の皆様、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

ご挨拶

事業推進部 部長
(富士フイルム医療ソリューションズ(株))

う え き せ い じ
植木 精司



この度、事業推進部部長を拝命いたしました植木精司と申します。会員の皆様におかれましては、平素よりJAHISの事業推進にご尽力・ご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。就任にあたり、この場をお借りして一言ご挨拶申し上げます。

我が国においては、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少や、育児や介護との両立などの働く方のニーズの多様化といった状況と、その対策としての生産性向上や多様な働き方の実現にはデジタル化が不可欠である、という認識はすでに社会全般に定着していると言え、メディアにおいても「DX」という言葉が一般的に利用されるようになっていきます。

また、PCやスマートフォンが日常的に利用されるようになってから数十年が経過し、COVID-19の流行がもたらした社会への影響を経て、日常におけるテクノロジーの活用は不可逆的に進んでいると感じます。特にここ数年は、生成AIに代表されるAI技術の進化と普及はめざましく、社会現象とも言える状況です。過去のAIブームとは異なり一般向けの製品への組み込みやサービスの提供も行われており、こちらももはや後戻りすることはないように思えます。

他業種に比べてデジタル化が進んでいないと言われる保健・医療・福祉の分野に関しても、政府によって「データヘルス改革・医療DX」が掲げられ、「医療DXの推進に関する工程表」を定め、医療分野でのデジタル・トランスフォーメーションを通じたサービスの効率化や質の向上に向けた具体的な取り組みを進めているところです。

このような時期に、保健・医療・福祉の情報システムにおける標準化活動や教育活動、普及の促進など、JAHISに期待される役割は一層大きなものになると考えます。

JAHISでは、2030年に目指すビジョンとして、「データ循環型社会」を掲げました。個人から発生した健康・医療・介護のデータが、健康・医療・介護サービスや、創薬・医療機器開発などの関連産業、ヘルスケア政策までの方向性を決定するエビデンスとなり、そこから発生したサービスが個人に還元される社会です。そして、この2030ビジョンの実現に向け、主にデータ利活用の提言や啓発活動、標準化の推進、人材育成のためのセミナーや勉強会の開催を行っていく予定です。

その中で事業推進部では、「工業会参加価値の追求」を基本方針とし、その推進のため各部会の横断的な協力を得て、JAHISの持つ組織・人材・知識を最大限に活用することによって、業務の健全な運営とさらなる発展を目指しております。

JAHIS会員の皆様への価値提供を通じて医療・保健・福祉分野への貢献ができればと考えておりますので、皆様のご支援のほど、よろしくお願いいたします。